

2010 年度

(2010 年 4 月～2011 年 3 月)

環境活動レポート



2011 年 4 月 27 日

株式会社 ワイ・イー・テック

環境方針

当社はビルトインモータ専門メーカーとして、半世紀に亘る蓄積した技術を駆使して事業を展開してきました。

今後も、当社が社会の中で人と環境を大切にしながら発展して行くために、ここに環境方針を作成しました。

従業員は経営理念の下、この環境方針に従って努力し続けます。

【経営理念】

- ・常に新技術を学び、信頼される製品を生産し続け、
ビルトインモータ No.1 企業を目指す
- ・お客様に喜ばれる製品を作り、社会に貢献出来る企業を目指す
- ・人にやさしい、環境にやさしい企業を目指し、社会との調和を図る

【環境方針】

当社は、地球環境保全と事業活動の両立を基本理念として、環境負荷の軽減に努めます。

1. 全社の業務において、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減を推進します。
2. 部材購入において、グリーン購入に努めます。
3. 新規開発製品において、モータの効率アップに努めます。
4. 製造プロセスにおいて、仕損の削減に努めます。
5. 環境目標を設定し、その達成に努め、継続的改善を図ります。
6. 関連する環境に関する法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
7. 本環境方針は、全従業員に周知し、徹底します。

2011年3月21日

(株)ワイ・イー・テック

代表取締役社長 浅井秀幸

1. 事業の概要

1.1 事業所及び代表者氏名

株式会社 ワイ・イー・テック

代表取締役社長 浅井秀幸

1.2 所在地

〒807-0048 福岡県遠賀郡水巻町吉田南 3-5-1

1.3 環境管理の責任者氏名及び担当者氏名、連絡先

責任者：生産技術戦略室 室長 太田賢次

担当者：生産技術戦略室 課長 沖川肇

連絡先：TEL (093) 201-9525

FAX (093) 201-2769

E-mail seigil@ye-tec.com

1.4 事業の内容

ビルトインモータの開発、製造及び販売

1.5 事業の規模

	2008 年度	2009 年度	2010 年度 (前年度比)
製品生産重量 (トン)	2,696	1,442	2,297 (159%)
従業員数 (人)	318	278	267 (96.0%)
床面積 (㎡)	7,969	7,969	7,969

2. 環境目標とその実績

2.1 目標の達成状況

環境目標	目標 実績	単位	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
二酸化炭素 排出量の削減	目標	製品生産重量当り (kg-CO ₂ /トン)	332 以下	325 以下	374 以下	370 以下
	実績	同上	436	378 (86.7%)		
		総量 (kg-CO ₂)	628,974	867,624 (138%)		
廃棄物 排出量の削減	目標	製品生産重量当り (kg/トン)	30.4 以下	29.8 以下	31.2 以下	30.9 以下
	実績	同上	34.4	31.5 (91.6%)		
		総量 (トン)	49.6	72.3 (146%)		
水使用量の 削減	目標	従業員一人当り (m ³ /人)	9.46 以下	9.27 以下	8.71 以下	8.62 以下
	実績	同上	7.22	8.8 (122%)		
		総量 (m ³)	2,006	2,349 (117%)		
化学物質 使用量の低減	目標	製品生産重量当り (kg/トン)	8.04 以下	7.88 以下	10.4 以下	10.3 以下
	実績	同上	10.6	10.5 (99.1%)		
		総量 (トン)	15.3	24.1 (158%)		
グリーン購入	目標	製品購入時 高効率品の採用	—	—	100%	100%
	実績	高効率品採用件数 /製品購入件数	—	—		
モータの効率 アップ	目標	新規設計時全件検討	—	—	100%	100%
	実績	検討件数/新規設計件数	—	—		
仕損の削減	目標	仕損金額 (万円/月)	—	—	23.4 以下	22.2 以下
	実績	同上	—	24.7		

(注) 1. 実績欄の()値は、前年度比を示す。

2. 2011 年度以降の目標は、2010 年度の実績をベースに毎年 1%削減とする。

但し、仕損の削減については、毎年 5%削減とする。

3. 「グリーン購入」、「モータの効率アップ」及び「仕損の削減」は、2011 年度から新たに追加した項目である。

4. 購入電力の排出係数は、0.374 としている。

3. 主要な環境活動の内容

3.1 二酸化炭素排出量削減のための取組み

- (1) 電気使用量の削減
- ① エアコンの使用温度、蛍光灯の不要時消灯の徹底
 - ② 新規購入機器の省エネルギー化
 - ③ 空調機フィルターの清掃及び白熱球を蛍光球に変更
 - ④ 照明安定器インバータ・蛍光灯を省エネタイプに変更
 - ⑤ 省エネVベルトに交換
 - ⑥ 2工場屋根と西側壁の断熱塗装工事
- (2) 自動車の燃料削減
- ①エコドライブの徹底
- (3) 焼却廃棄物の削減
- ①廃油、廃プラの削減

3.2 廃棄物排出量削減のための取組み

- ① ダンボールの再利用の推進
- ② コピー用紙購入量の削減
- ③ 紙コップ・弁当箱の業者引き取りの徹底

3.3 排水量削減のための取組み

- ① 節水の徹底、水道配管及び蛇口からの漏水のチェック
- ② トイレ擬音装置の電池確認及びフロートバルブチェック

3.4 化学物質の排出量低減

- ① 作業方法の見直しによる廃棄ワニス、洗浄剤の削減

4. 環境活動の取組結果の評価

2010年度の目標に対する実績は下表の通りであった。

目標	単位	2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績 [前年度比]	目標達成 の判定	
二酸化炭素排出量 の削減	製品生産重量当り (kg-CO ₂ /トン)	436	325 以下	378 [86.7%]	×	
主要 4項目	電力量	KWh	1,037,144	(773,100 以下)	(1,444,801) [139%]	(×)
	灯油使用量	リットル	51,700	(38,500 以下)	(31,500) [60.9%]	(○)
	軽油使用量	リットル	14,001	(10,400 以下)	(18,705) [134%]	(×)
	廃棄物焼却処理量	トン	13.3	(9.9 以下)	(27.9) [210%]	(×)
廃棄物排出量の削減	製品生産重量当り (kg/トン)	34.4	29.8 以下	31.5 [91.6%]	×	
総排水量の削減	従業員一人当り (m ³ /人)	7.22	9.27 以下	8.80 [122%]	○	
化学物質排出量の低減	生産製品重量当り (kg/トン)	10.6	7.88 以下	10.5 [99.0%]	×	

4.1 二酸化炭素排出量の削減

総量では前年度比 138%と増加し、生産重量当りでは前年度比 86.7%と減少したが、目標を達成出来なかった。この主要因は、2009 年度の景気低迷より生産高が上昇してきたが、2008 年度の 8 割程度に留まり生産効率がまだ悪化しているものとする。

- (1) 電力量；電力使用量は前年度比 139%に増加した。これは受注量の回復に伴う稼働日増による影響が大である。

工場照明の高効率(インバータ)化、第 2 工場の屋根及び西側側面に断熱塗料を採用、(K0)ライン建屋の老朽更新にともないスレートの補強と同時に断熱工法を採用した。

二酸化炭素排出量の内電力量の占める割合が依然約 63%もあり、二酸化炭素排出量を削減するためには引き続き電力量の削減がポイントである。

- (2) 灯油；灯油は冬季のストーブ用燃料に使用している。使用量は前年度比 60.9%に減少。

老朽アルミ溶解炉を 2009 年 12 月に撤去し、新規溶解炉を設置するとともに燃料を灯油から液化ガスに切替えたため大きな効果がでた。

- (3) 軽油；軽油は輸送用車燃料に使用している。使用量は前年度比 133%に増加。

受注量の回復に伴い稼働日の増加、配送回数の増加によるものと思われる。

- (4) 廃棄物焼却処理量；前年度比 210%に増加。

2010 年度は、廃プラを 2 回廃棄したため、大きな増加となった。

4.2 廃棄物排出量の削減

総量では前年度比 146%と増加、生産重量当りでは前年度比 91.6%と減少したが、目標を達成出来なかった。活動計画を地道に浸透、徹底、習慣付けすることに注力する。

4.3 総排水量の削減

使用量は前年度比 117%（従業員一人当り使用量は 122%）に増加したが目標を 5%下回ることが出来た。こまめな漏水チェックの成果の現れだと思われる。

4.4 化学物質排出量の低減

総量では前年度比 158%と増加、生産重量当りでは前年度比 99%と僅かに減少したが、目標を達成出来なかった。2011 年度も引き続き、作業方法に改善の余地はないか検討する。

5. 次年度取組み内容

5.1 二酸化炭素排出量削減

2010 年度の活動項目を継続するとともに、新たに空調機の老朽更新による省エネ製品の導入、未着手の蛍光灯安定器の高効率化、2 工場の照明スイッチをショップ毎に細分化する変更を行う。

5.2 廃棄物排出量削減

2010 年度の活動項目を継続するとともに、新たに廃棄木製バレットの業者引取り再利用、金属屑の再利用を行う。

5.3 排水量削減

2010 年度の活動項目を継続する。

5.4 化学物質の排出量低減

2010年度の活動項目を継続するとともに、特定カスタマのワニス処理回数を2回から1回に変更し廃棄ワニスの削減、洗浄剤の削減を行う。

5.6 グリーン購入

製品購入時、高効率品の採用を行う。

5.7 モータ効率アップ検討

連続運転の新規開発品は、IE2以上の効率の確保を行う。

5.8 仕損の削減

各課、前年度実績の5%仕損再製費の削減を行う。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

- (1) 環境への取組みについては、適切に実施されている。
- (2) 環境経営システムの機能については、環境経営マニュアルに基づき運用され、システムが有効に機能していると判断する。
2011年度においては、EA21ガイドライン2009年度版に適用するため、マニュアル類の全面改訂を行い、活動していく。
- (3) 環境方針の見直しについては、グリーン購入、モータ製品の効率アップ、仕損の削減について方針を追加した。(2011年3月21日完了)
- (4) 環境経営マニュアルの見直しについて、ガイドライン2009年度版へ適合するよう全面見直しをした。(2011年3月18日完了)
 - ・ EA21推進委員会議事と教育の記録方法。
 - ・ 内部監査の実施。
 - ・ 環境レポートへの代表者の評価と見直し結果揭示。
 - ・ その他。
- (5) 環境目標、環境活動計画の見直しについては、ガイドライン2009年度版で追加した環境目標項目を含めて、先の金融危機後の景気回復を受けて、3ヶ年中期計画を2011年度～2013年度に設定し直して活動計画をたてた。(2011年4月20日完了)